

競技注意事項

1. 競技規則について

本競技会は、「2025年公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則」および「競技会における広告および展示物に関する規定」ならびに本大会申し合わせ事項に基づいて実施する。なお、本競技会はWRK対象競技会とする。ただし、5000m競歩およびリレー種目、国スポ選考種目以外の跳躍種目はWRK対象競技会としない。

2. 招集について

①招集所は第3ゲート内に設置する。

②各競技の招集開始時刻および完了時刻は、以下のとおりとする。（競技開始時刻を基準とする。）

トラック										
100m・300m・400m			800m・110mH・110mJH 100mH・100mYH・300mH 400mH・4×100mR			1500m・3000m			5000mW	
組	開始	完了	組	開始	完了	組	開始	完了	開始	完了
1～4	25分前	15分前	1～3	25分前	15分前	1～2	25分前	15分前	25分前	15分前
5～12	15分前	5分前	4	15分前	5分前	3～4	15分前	5分前		
13～20	5分前	5分後								
21～28	5分後	15分前								
29～	15分後	25分後								

フィールド							
男子走高跳・棒高跳		その他の跳躍競技		男子やり投		その他の投てき競技	
開始	完了	開始	完了	開始	完了	開始	完了
60分前	50分前	50分前	40分前	50分前	40分前	40分前	30分前

③競技者は招集完了時刻までに招集所で競技者係の点検を受けること。その際、アスリートビブス、シューズ、スパイクの寸法と数、衣類やバッグ等の商標の確認を受けること。

④ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話およびこれに類似する機器など、承認されていないものは招集所・競技エリア内への持ち込みを禁止する。これらを持ち込んでいる場合、助力と見なされる場合がある。

⑤代理人による招集は認めない。ただし、強化委員に認められ、2種目以上同時に出場する競技者については、「多種目同時出場届」に必要事項を記入し、最初の種目の招集完了時刻までに、本人または代理人が招集所へ提出すること。提出後は、最初の種目の招集時に、2種目目以降で使用するスパイク等の確認も同時に受けること。

⑥招集完了時刻に招集所にいない競技者は、当該種目への参加から除外され、欠場（DNS）として記録される。

⑦欠場する場合は、V-T-I-C（バーチャルTIC）内の「欠場届」に必要事項を記入し、招集開始時刻までに提出すること。 ※詳細は「11. V-T-I-Cについて」を参照（QRコードを記載）。

⑧リレーに出場するチームは、「リレーオーダー用紙」を、第1組の招集完了時刻の1時間前までに招集所へ提出すること。オーダー用紙はT-I-Cに置く。

3. アスリートビブスについて

①アスリートビブス（縦16cm×横24cm）は、エントリー時に入力された登録番号で競技者が準備すること。

②800m、1500m、3000m、5000mWについてはオーダー順の腰ナンバー標識を招集所で配付する。フィニッシュ後に係に返却すること。

③②以外の種目では、①と同じ番号の腰ナンバー標識（縦12cm×横18cm）を準備すること。

④アスリートビブス・腰ナンバー標識の安全ピンは各自で用意すること。

4. 競技エリア（FOP）への入場について

①招集所から競技役員の指示に従い競技場に入場すること。

②競技終了後は、競技役員やスタッフの指示に従い、退場すること。

5. トラック競技の抽選および番組編成について

①トラック競技のレーン順・フィールド競技の試技順は、スタートリストに記載した順による。100m選抜レースの出場者は、強化委員が選抜する。

6. 競技について

〈共通〉

- ①競技結果については、場内スクリーンに表示し、アナウンスにより発表するとともに、「滋賀陸上競技協会大会結果速報サイト」に掲載する。なお、競技結果が場内スクリーンに確定表示され、アナウンスされた時点を正式発表とする。
- ②競技者に対する助力については、TR.6に準ずる。
- ③主催者が設置したビデオ記録を用いて、判定を行うこともある。

〈トラック競技〉

- ①計時は、すべて写真判定システムを使用する。
- ②短距離種目では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーンを走ることにする。
- ③男子3000mは、アウトレーンゴールとする。

〈フィールド競技〉

- ①距離の計測は光波距離計測器を使用する。(砲丸投を除く)
- ②走高跳の競技前練習は、試技順に「足合わせ1本」を行った後、事前に設定された高さで「公式練習2本」とする。
- ③棒高跳に出場する競技者は、前の競技の競技終了後から招集開始時刻までの間、棒高跳ピットを使用して練習することができる。
- ④棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱(アップライト)の位置を変更したい場合は、バーがセットされる前に担当競技役員に申し出る。試技時間のカウントが開始された後は、支柱(アップライト)の位置をそれ以上変更することはできない。(TR28.1)
- ⑤走幅跳・三段跳の競技前練習は、試技順に「足合わせ1本」「公式練習2本」とする。
- ⑥三段跳の踏切板は、砂場から男子13m00、女子10m00の位置に設置する。
- ⑦走幅跳・三段跳は、国スポ選考対象の種別において、選抜ラウンドとしてTOP8を実施する。
- ⑧フィールド競技が行われる近接のスタンドに「コーチ席」を設ける。コーチングはコーチ席からのみ行うこと。
- ⑨フィールド種目における手拍子についてはTOP8以降で最終試技のみとする。高さ種目においては、おおむね3名以内になってからとする。
- ⑩フィールド競技における競技エリア(FOP)内での練習は、すべて競技役員(FO)の指示に従うこと。
- ⑪フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像を確認するために、コーチ席から録画再生機器等を手に取り、その付近で操作する場合に限り、競技区域への持ち込みを認める。また、メインスタンド前ピットおよびバックスタンド前ピットで実施される跳躍競技において、指定された場所でスタンドのコーチと競技者がタブレットやスマートフォン等を受け渡すことは可能とする。その際に使用する紐や袋等は、各チームで準備すること。受け渡し時には、事故等が発生しないよう十分にコミュニケーションを図り、安全面に最大限配慮すること。万が一事故等が発生した場合、主催者はその責任を負わない。
- ⑫サイドスタンドでは、コーチ席内から録画再生機器等を選手に手渡してもよいが、録画再生終了後すぐにコーチ席内に戻すこと。
- ⑬競技者は、競技役員(FO)の許可を得ず、また審判員の同行がない限り、競技進行中に競技場所を離れてはならない。

7. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

- ①最後の一人になり優勝が決定するまでは次の通りとする。

走高跳										
種別	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以降
成年男子	1m90	1m95	2m00	2m05	2m10	2m15	2m18	2m21	2m24	3cm
少年共通男子	1m80	1m85	1m90	1m93	1m96	1m99	2m02	2m05	2m08	3cm
成年女子	1m30、1m50	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	1m66	3cm
男子	1m25、1m65、1m80	1m30	1m35	1m40	...	1m85	1m90	1m93	1m96	3cm
棒高跳										
種別	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以降
少年共通男子	任意の高さ	3m90	4m00	4m10	4m20	4m30	4m40	4m50	4m60	10cm
成年女子	任意の高さ	2m90	3m00	3m10	3m20	3m30	3m40	3m50	3m60	10cm
男子・女子	任意の高さ	当日決定する								

※同記録による1位を決定するバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

※天候等の状況により変更となることもある。

8. 競技用具について

- ①棒高跳用ポールを除き、競技に使用する用具は、競技場備え付けのものを使用しなければならない。ただし、投てき用具については、1人2個以下に限り、当日検査の上使用を認める。このとき、すべての競技者が使用できることが条件となる。
- ②持ち込み投てき用具（日本陸連検定品かつWA認証品に限る）の検査を受ける場合は、競技開始の1時間前より40分前までに、フィニッシュ側倉庫へ投てき用具を提出すること。投てき用具には所属名を記入しておくこと。前回の検査済シールは剥がしておくこと。また、WRk対象競技会のため、使用できる用具のリストを確認しておくこと。
- ③WA認定品かどうかの証明は、本人がしなくてはならない。（認定シールまたはWAサイト情報にて）

9. 競技用靴について

- ①スパイクピンの長さは9mm以内とし、走高跳、やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。
- ②World Athletics (WA) が承認したシューズリストでNoと記載されている靴については使用ができないので、各自で確認しておくこと。<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/shoes/>
（競技用シューズの承認状況 <https://certcheck.worldathletics.org/>）
- ③靴底の厚さについては、TR5及び「競技用靴に関する規程」に準じる。規定を超える靴での出場は認めない。
- ④使用された靴に関して審判長が疑義を抱いた場合、競技終了後に提出を求めることがある。

10. 練習について

- ①本競技場の練習時間帯は7:30～8:50とする。補助競技場の練習時間帯は8:00～最終種目招集開始時刻までとする。
- ②本競技場・補助競技場とも競技場備え付けの用具を使用すること。ラダー、ミニハードル、ゴムチューブ等を使用しでのスピード練習は禁止する。
- ③本競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習、2レーンはジョグ専用、3～7レーンは短距離練習、8・9レーンはハードル練習とする。補助競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習、2レーンはジョグ専用、3～6レーンは短距離練習、7・8レーンはハードル練習とする。
- ④補助競技場の跳躍練習について、助走練習のみ可能とする。ただし、使用した者で準備・片付けをすること。マットおよび踏切板の使用は禁止とする。
- ⑤投てき練習（メディシンボール等を含む）は、競技場の内外を問わず一切禁止する。
- ⑥ウォーミングアップは補助競技場および室内練習場で行うこと。2階・3階スタンド通路、メイン競技場通路や駐車場周辺でのウォーミングアップ（ジョグ、ダッシュ含む）は禁止する。
- ⑦室内も含めて競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。また、室内練習場は、短距離系のスピード練習と長距離のジョグは混在しないように注意すること。また、走る方向は彦根城側から大型スクリーン側とする。砂場は使用不可とする。

11. V-TICについて

- ①「欠場届」と「記録証明書発行届」はV-TIC内の専用フォームから提出すること。
- ②記録証明書は発行手数料500円と引き換えにエントランスホールのTICで手渡す。



12. その他

- ①競技会における怪我の応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。
- ②テントの設置は、メインスタンドおよびサイドスタンドでは禁止とする。バックスタンドについては設置を可とするが、風で飛ばないように安全に設置すること。ごみは各自・各チームで持ち帰ることを基本とし、使用した場所は責任をもって清掃し、競技場の環境美化に協力すること。
- ③競技場外でのテントの設営を禁止とする。
- ④室内練習場は、練習時のみ使用すること。チーム待機場所を室内練習場内に常設することは一切禁止とする。
- ⑤横断幕の設置は、サイドスタンドおよびバックスタンド最前列手すりに限る。
- ⑥スマートフォン以外の機器で撮影を行う場合は、エントランスホールのTICにて手続きをし、撮影許可証を受け取ること。許可証は首から下げて携行し、退場時には必ず返却すること。また、大会で撮影した画像・動画等をSNS等へ投稿することを禁止する。
- ⑦スタート地点など、撮影禁止エリアでの撮影は認めない。審判員の指示等に従うこと。

⑧提出書類は下記のとおりとし、すべてT I Cにて受け取ること。なお、T I Cはエントランスホールに設置する。

	提出書類	提出先	提出時間
1	多種目同時出場届	招集所（競技者係）	第1種目の招集完了時刻まで
2	欠場届	V-T I C	各種目の招集完了時刻30分前まで
3	リレーオーダー用紙	招集所（競技者係）	各種目出場該当組の招集完了時刻の1時間前まで
4	リレーオーダー変更届	招集所（競技者係）	医務員の署名捺印後、招集完了時刻まで
5	抗議申し立て(口頭)	T I C	正式記録発表後（予選）15分まで（決勝）30分まで
6	上訴申立書(文章) (預託金1万円)	T I C	審判長公式裁定後（予選）15分まで（決勝）30分まで
7	記録証交付願	V-T I C	競技終了後随時

15. WRk・WA競技規則に関する補足

<WA規則が適用される項目>

- ①投てき競技は、日本陸連検定品かつWA認証品の投てき物のみ使用できる。(TR32.1)
- ②同時申込を含めて、試技時間に競技者が不在の場合はパス扱い(-)とする。(TR4.3)

<WA規則が適用されない項目>

- ③トラック種目、フィールド種目ともに現場での抗議(競技中の抗議)は認めない(TR8.4.1および8.5は適用しない。)
- ④広告・商標については、国内競技会における広告及び展示物に関する規程を適用する。